

ィスカッション

パネルディスカッションは、対立する意見の代表者が討論する形式で行う。資料の主人公に対し弁護する者、批判する者を対立させ話し合いをする。聞く側は友人の話聞き質問するなどして、外に向かう目と自分自身の目を内に向けさせ、内面化によって自分を内省できるための手だてとして行われるものである。

② 多様な考えの交流

生徒の中には話し合いが適する生徒、黙考するのが効果的な生徒、理詰めで考えるのが得意な生徒、感性を通して了解するのが最もよい生徒など様々である。これら一人ひとりの生徒の実態を把握し、話す側、聞く側の基本的な作法を身につけさせながら、表面的なやりとりとならないようにする。深く自分を見つめたり心の対話となったりするように進める。

③ 内省化

資料を通して今までの自分の持っていた価値観よりも高められた価値観に照らして今までの自分はどうかであったか見つめることが大切になる。それがなされた時、はじめて今までの自分の弱さに気づくことが可能となる。その「今までの自分自身の弱さに気づいた状態」を内省化したととらえる。

(2) 仮説

価値の主體的自覚を図る段階においてパネルディスカッションを核にした話し合いを工夫すれば、生徒の道徳的価値に対する多様な考えが交流でき、内省化が図られるであろう。

3. 計画

- (1) 方法 一群法による
- (2) 対象 2年4組(男子21名 女子19名)
- (3) 組織 個人研究

(4) 日程(省略)

4. 研究の概要と考察

(1) 研究の経過

- ① 検証までの準備 (省略)
- ② 検証授業計画

ア. 主題名「弱さ醜さの自覚」

(ア) 資料名 「ライバル」(8人間愛)

(イ) ねらい

「心の中にひそむ弱さ醜さに遭遇しても、人間を愛する心を失わずお互いの向上に努める態度を育てる。」

イ. 主題設定の理由 (省略)

- 2時間取り扱いにし、第1時は類似体験を想起させるために心のウォームアップを図り、単なる友情の問題としてでなく人間の心の問題としてどうとらえたらよいかを考えさせたい。
- 2時は啓介の心の葛藤をパネルディスカッションをすることによって多様な価値観を出させ、相互交流させて内省化を図りたい。

ウ. 指導過程

- 第1時 (省略)
- 第2時

段階	学習活動・発問 中心◎ 基本○ 補助・	時間	指導上の留意点 ▲仮説との関連 △類型化
追 求 ・ 把 握	1. あらすじ確認 ・ 啓介を中心としたあらすじの確認をしよう。	3	○ 啓介を中心としたあらすじを簡単にする。
	2. ◎ 康夫が病気で休学すると知ったときの啓介の気持ちをどう思うか。	15	▲ 全員に感想を聞き多様な考えを引き出し、4つくらいに類型化してパネラーを選出しパネルディスカッションをさせる。 ▲ パネラー選出の場合、スポーツをやっている者、やっていない者、友達関係で悩んでいる者、協調性のある者などを選出し、8名ぐらいで助け合いながら進められるよう配慮する。
	◎ はっとするのは当然だ。 ○ はっとする気持ちはわかるが自分の友達だったら許せない。 ○ 友人の不幸を喜ぶなんて、スポーツをやれる者としてはずかしい。 ○ はっとするなんて他人の心の痛みがわからない思いやりのない人だ。		
	3. ○ 見舞いが一日また一日とのびたのはなぜだろうか。		▲ パネラー以外からも質問をさせ話し合いを深める。 ○ 人間の心の弱さに気づかせる。 ○ 友人の不幸を喜び、一方では自分のあわれな姿に悔恨の情がわいてくる心の葛藤に気づかせる。
一 般 化	4. ○ 肩を落として帰っていく啓介の心はどんなだったろう。	10	○ 人間の弱さ醜さの克服のために他人に対する思いやりの心を持たなくてはならないことに気づかせる。
	5. 自分たちの生活に生かしたいこと。 ◎ 康夫と啓介から教えられることは何か。自分が実行できることは何か。	12	○ 人間は不完全であり欠点、弱さを持っている。だからだれにでも温かく接し弱さを克服し他人に対し思いやりをもつことの重要さ。